

おかあさんに学び、東北復興を応援しよう!



宮城県加美郡加美町

宮城県北西部にある加美町(かみまち)は、奥羽山脈を源流とする鳴瀬川水系が集まる豊かな稲作地帯です。震災後は町内に避難所を開設し、宮城県南三陸町などから約70人を受け入れました。また全国から届く支援物資の仕分け作業の人手が足りないという宮城県南三陸町の要請を受け、グリーン・ツーリズム推進協議会が主体となり、毎日シャトルバスに希望者を乗せて10日間、支援活動を行いました。



おかあさんの宿 5 宮城県加美郡加美町

澁谷 わかなさん

おりざの森

友人や恩人や母校が被災し、胸が潰れるほど辛かった。

震災直後、友人からのメールで津波被害を知り、胸が潰れる思いでした。仙台空港に近い母校の農業大学校(宮城県名取市)は建物も畑も津波に飲まれ、親友が流されました。住み込みで研修させて頂いた石巻市の漁家民宿「のんびり村」の坂下お母さんとお父さんがとても心配でした。そして原発の爆発…。私はその時出産の直前で、おなかの子と5歳になる双子を思うと、不安でたまりませんでした。坂下さんの

無事がわかり、私が出産で動けない代わりに父と母が数回、片付けの手伝いに行きました。5月に宿の営業を再開して以降、被災地復旧や支援の方が連日滞在され、また沿岸の施設が被災してスポーツ大会が加美町に集中し、選手の方も泊まりました。22歳で民宿を初めてから10年で最も忙しい1年。でも…観光のお客様はほとんど来られませんでした。きっと放射能を怖がっていらっしやるのでしょう。



東北を支援する気持ちがあるなら、遊びにきて。

加美町は奥羽山脈から吹き降ろす風が守ってくれたのか、放射線量は低いです。我が家が自然栽培・アイガモ農法で育てている米は、毎年、全国からご注文頂く自慢のお米です。でも今年は売れていません。普通のお米は売れているのに、食への関心が高いお客様ほど離れてしまっているのではないかと感じます。怖い気持ちはわかります。ただ知って欲しい

です。私たち生産者も怖いんです。自分と子どもが毎日食べる物ですから。だからみなお金を出して作物を検査に出して「ND(Not Detected:不検出)。出なくてよかった」と安心して、やっとの思いで出荷しているのです。被災地を思ってくれる気持ちがあるなら、ぜひ一度来て下さい。東北に人が遊びに来てくれることが一番の支援です。



築115年の養蚕農家の家でいろいろな楽しみ!

田園に行むくつろぎの古民家民宿「おりざの森」

高い天井、白い漆喰の壁と太い梁、まるでロフトのように巨大な神棚。この特徴的な建築は、宮城県角田市より移築した築115年の養蚕農家の家。とても落ち着く。「農業体験や料理体験もありますが、ここに来ると何もしないというお客様も多い」と言うのも至極納得。1日1組限定(最多10人)のためこ

の贅沢な空間を別荘のように独占できる。到着したらわかさんが地元の葉草茶、熱いリンゴジュース、フレッシュハーブティーなどで迎え入れ。夜は母・ふみえさんが隣家で営む人気の農家レストラン「ふみえはらはん」で地元の食材を使った7~9品の創作田舎料理で満腹。極上の隠れ家です。

